

**双葉町復興町民委員会 復興産業等拠点部会
ワークショップ 第4回 報告書**

■日時 平成27年11月25日(水) 13:00~16:00

■場所 双葉町役場いわき事務所 2階大会議室

■参加者 別紙座席表のとおり

- テーマ
- ・中野地区復興産業拠点基本構想図(案)について
 - ・駅西新市街地ゾーンの整備の進め方(案)について
 - ・新産業創出分科会からの検討結果報告について

■流れ

1. 中野地区復興産業拠点部会基本構想図(案)について
 - ①前回の振り返り
 - ②基本構造図(案)について説明(事務局)
 - ③意見交換
2. 駅西新市街地ゾーンの整備の進め方について
 - ①前回の振り返り
 - ②駅西新市街地ゾーンの整備の進め方(案)について説明(事務局)
 - ③意見交換
3. 新産業創出分科会から検討結果報告
 - ①報告書について説明(分科会長)
 - ②報告書手交(分科会長⇒部会長)
 - ③報告書内容説明(事務局)
 - ④意見交換
4. 全体討議
5. 今後の取りまとめ方について

■ワークショップ成果の発表

■第1部テーマ：「中野地区復興産業拠点部会基本構想図（案）について」

【カードに書かれた意見】

《全体の感想》

- 概ねこの感じで良いのではないか。
- だいたいこの感じで良いと思うが、汚水処理施設については、川のそばでなくて大丈夫か。
- ゾーニングされた部分は何 ha か？（拡張用地を除いて）
（事務局回答）全体で51haだが、ゾーニングは29ha。拡張用地は17ha。
- 29haだと、想像していたものよりもコンパクトである。

《産業・研究・業務施設関連》

- 産業・研究・業務施設が南北の2つのゾーンに分かれているが、一つにできないか。
（事務局回答）共同事業所を復興シンボル軸沿いのアクセスのよいところに配置したため、「産業・研究・業務施設」が結果的に2つに分かれている。
- 「産業・研究・業務施設」は、北側・南側を一緒にして、産学連携施設を上へ移動しても良いのでは？
（サポーター補足）第3回部会でBグループ（案）が「産業・研究・業務施設」を上下に分けたのは、南側（中間貯蔵施設）・北側（再生可能エネルギー・農業再生モデルゾーン）のゾーンそれぞれとの連携を考えた企業誘致を想像してのものだった。

《共同事業所関連》

- 共同事業所を西側の拡張用地のところに移して、産業・研究・業務施設を南北で一体化してはどうか。
- 共同事業所の規模がもう少し大きい方がよいのではないか。
（事務局回答）ゾーニングは、あくまでも大体の位置関係を示したもの。具体的な規模感については、今後計画を詰めていく中で、実際のニーズを踏まえて具体的に検討していく必要がある。

《産学連携施設関連》

- 産学連携施設の費用は大学が出すのか。
（事務局回答）産学連携施設はイノベーションコースト構想の受け皿となる施設というイメージだが、同構想の中でも、施設によって国が主体となったり、民間と協力したりするなど、パターンによって負担者が変わる。参考となるよう、調べられる範囲で、資料4-3（各

地の事例) に追加情報を入れる。

《産業交流センター関連》

- (特に意見はなかった)。

《アーカイブセンター関連》

- アーカイブセンターは公園のなかにあった方が良いのでは？
(事務局回答) 復興祈念公園予定地は津波リスクがある場所なため、アーカイブセンターのような建物を建てることは困難。また、復興祈念公園は、国と県が主体となって検討を進めているため、町からも意見は言えるが、町としてここにこうしますと決めるのは難しい面もある。

《道路・駐車場関連》

- 道路を広くして欲しい。
- 駐車場が狭い印象がある。外部から来る人もいるので(駐車場を広くとったほうがよい)。

《拡張用地》

- 拡張用地が狭い気がするので、もう少し西側に大きくしたらどうか。
(事務局回答) 将来的には広げていく方針だが、今は拡張用地のさらに西は帰還困難区域である。今回の構想図は、まずは避難指示解除準備区域の土地利用というイメージで作成しているので、ご理解いただきたい。

《污水处理施設》

- 污水处理施設の規模感は？
(事務局回答) 污水处理施設の規模については、立地する企業の種類・数・規模等によるので、具体的には今後検討。
- 污水处理施設と下水処理施設の関係はどうか。
(事務局回答) 下水処理施設の代替施設として考えている。

《調整池》

- 調整池の役割は何か。
(事務局回答) 開発によって下がアスファルトになると雨水の流れが速くなるが、それを一度に河川に流さないように一時的にためておく場所である。
- 調整池の規模はどのくらいか。
(事務局回答) 開発範囲にあわせて決定する。かなり面積を取られる場合もあるが、災害対策であり必要である。あわせて、調整池から海へ放

流することができるように水路を整備する。

《周辺町村との連携》

- 双葉町と隣接している浪江町の構想はどうなっているのか。また連携を図っているのか。そこが見えてこない。
(事務局回答)わかる範囲でということにはなるが、確認して次回報告。

ワークショップの成果



■第2部テーマ「駅西新市街地ゾーンの整備の進め方について」

【カードに書かれた意見】

《全体の感想》

- 全体的にはこの進め方でよいと思う。(できるところから進める)

《早期除染》

- 早めの除染で安心して住めること、暮らせることが大事。
- 早く進めて行ってほしいと思うので、段階的に新市街地・街中の復興が進んでいくと良い。
- できるところから進めていくのが良いと思う。

《人が住めること》

- 一番大切なことは人が住めること。まず住宅の場所の確保、人が住めばおのずと人の生活に必要なものが出来てくるはず。
- 道路整備・住宅地確保が大事である。

《駅西新市街地ゾーン》

- 中野地区とあわせて、新市街地ゾーンも同時に除染してほしい。

《まちなか再生ゾーン》

- まちなか再生ゾーンの除染も進めていくことが大切だ。

《国道6号線》

- 国道6号線は中間貯蔵施設のわきを通っているため、放射線量が心配。国道6号線や鉄道をもう少し西へ移動させてはどうか。
- 国道6号線を西へ移動させるよりも、中間貯蔵施設を早めになくしたい。

《農業の除染》

- 復興というのは水田(農業)も大切だと思う。農業用地についても除染が必要。(生産を続けることがとても大事)
- 農業関係の除染をどのように考えているか。

(事務局回答)長期ビジョンにも「耕作再開モデルゾーン」があり、農地も将来的には除染が必要だということは認識。ただ、まずは「人が住める環境づくり」を優先的に行う必要がある。農業については、今回の部会の議論の対象にもなっている農業再生モデルゾーンから順次再開していく形ではないか。

第3部テーマ：「新産業創出分科会からの検討結果報告」

【カードに書かれた意見】

《土地利用》

- 土地の利用は、地権者の支援になるようなプランがよい。しかも早く取組みをしたほうがよい。
- （遠くに避難している町民には農地の維持管理が難しいため）土地を有効活用しなければならない地権者がいる。近ければよいが、遠いと難しい。
- （太陽光発電の売電価格が減少傾向であるため）遅ければ遅いほど、地権者にとってデメリット。太陽光など早く開始するべきだ。メリットを追求して優先的に取り組んでいくべき。
- 新エネルギーと、それを使った農業の現場を視察して参考になった。これを、これからどう双葉町に活かしていくか（が重要である）。

《水利》

- 両竹地区で農業をしていたが、実際に水田をつくるというのは難しい点もある。
- 両竹地区は、再生可能エネルギー、農業再生モデルゾーンとして指定されているが、農業（水田）用水の供給の問題などいろいろな問題が出てくる。
- 稲作用の水はどうするのか。大垣ダムの水は線量が高くて難しい。水路も（地震で）壊れていて難しい。（地下水を）くみ上げるのか。また水利権の問題も出てくる。

《太陽光》

- 農業の再生モデル地区（再生可能エネルギーゾーン）での太陽光発電には、（民間）事業者が進出するのか。
- 両竹地区は津波に家を流された人が多く、土地を有効活用したい（と考えている）人もいる。地権者のために、太陽光エネルギーの有効活用ができそうである。
- 太陽光エネルギー事業は、地権者にメリットのある状況に（してほしい）。優先的にメリットのある方策を考えてもらいたい（単価UP・地元で使う）。
- エネルギー単価を安くならないようにしてほしい。（太陽光発電した電気を高く買い取ってほしい。）

《組合》

- 営農組合への支援はどのようなものか。
（事務局回答）組合設立の支援はする予定。また、農業を再開するため

に、10反当たり3万5千円の補助金がある（農地保全について）。
組合にも援助がある予定。

《組合の参加資格》

- 復興組合のメンバー（組合員参加資格）は、地権者でなくともよいのか。
(事務局回答) 組合へは、地権者だけでなく、営農に意欲ある人なら参加できる。

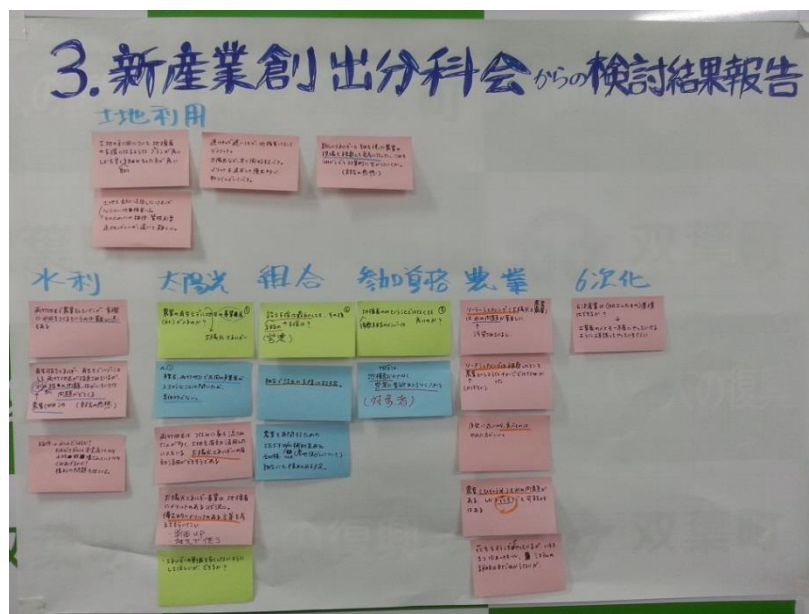
《農業》

- ソーラーシェアリング（太陽光と農業）は、水が汚染されているため難しい。
- （かぼちゃ栽培の）ソーラーシェアリングを視察したが、農業というようなイメージではなかった。
- 原発に近いため、食べ物はやめた方がよい。
- 農業（飼料米）も水の問題がある。花きならば可能性はある。
- 花きをオランダでやっているが、ハウス1棟が10ヘクタールある。
(運営) システムの説明がまだない（ので双葉町でもやれるかどうか不明）。

《農業の6次産業化》

- 6次産業は(双葉町事業所間で)連携できるか？→(別の部会員回答) 工業者の人とも一緒にやっていけるように頑張ってやっていきたい。

ワークショップの成果



■全体のまとめ（金子氏）

- 第1部の中野地区復興産業拠点の基本構想は、全体的には合意を得ることができた。産業・研究・業務拠点の位置が南北2か所に分かれていることに対して、一体化できないかという意見が出た。また、汚水処理施設と調整池について、役割や規模感について質問や意見が出た。
- 第2部の駅西新市街地ゾーンの考え方については、全体的には合意を得ることができた。中野地区から段階的に整備を進めていくが、駅西新市街地ゾーンやまちなか再生ゾーンについても、早期に除染を進めて、1日も早く人が住めるようにしてほしいという意見があった。また農地の除染の早期化についても意見があった。
- 第3部の新産業創出分科会の結果報告について、地権者のことを考えて、土地の有効活用を図ってほしいという意見が出された。

◇学識経験者 間野先生からの講評

まず、中野地区復興産業拠点についてであるが、これで概ね具体化に進めるなと思った。いくつか論点があったので、最終報告に向けて、事務局で、もう一段階案を練ってもらいたい。

資料にある「産業・研究・業務施設」と「共同事務所」という言葉の意味がはっきりしていない。「産業・研究・業務施設」を一言でいえば工業団地である。「共同事務所」といえばオフィスというイメージだが、オフィスという意味のみではなく、地元の事業所が事業を始めるという意味もあったと思う。

もう少し整理すると、分かりやすくなるのではないか。

外から誘致する企業と、もともとの双葉町の事業所の関係についても、もう少し整理をすると、最終的なまとめ案ができあがると思う。

部会として、次回最終とりまとめになると思うので、意見出してもらった人とも議論して最終取りまとめを行ったらよい。

二つ目については、駅西・新市街地ゾーンについてであるが、まずは除染である。

駅西だけして駅東はやらないのかという話も出たが、長期ビジョンの中でも実は示してある。帰還困難区域とひとまとめに言っているが、低線量になってきているところがある。低線量の区域にまちなか再生ゾーンと新市街地ゾーンが入っている。除染はその場所のみで行っても全体が下がるわけではないので、一体となっていく必要がある。

駅西新市街地ゾーンとまちなか再生ゾーンは一体として復興させる必要がある。

しかし、まちなか再生ゾーンは、すでにある街をもう一度やり直すという、いわば再開発となり時間がかかる。

駅西について、新住宅街なので、早くでき、かつ、復興に必要な住宅地を作っていくことになる。駅西を優先してやっていくという考え方でよい。

駅東はひとつひとつできるところから復活させていき、駅西は一体的にや
っていくというイメージで進めていけばよい。

両竹浜野地区については、3つのゾーンに分かれてよかった。

(どのやり方がよいかは) 簡単には答えがでてこない。いくつかの選択肢
があるという認識に立って、それぞれの可能性を追求していくということで
よいと思う。

◇全体討議

(部会委員)

浪江町との隣接する場所があるが、全体像が見えない。浪江町の構想もリ
ンクさせた図も見たい。

(事務局)

確認し、用意できる範囲で準備したい。

グループワークの様子 1



グループワークの様子 2



事務局説明の様子



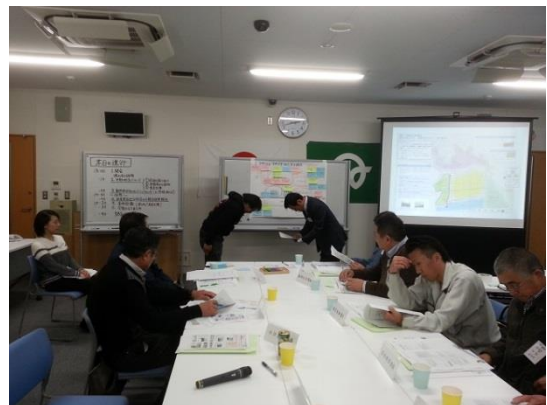
新産業創出分科会長発表の様子



報告書手交の様子 1



報告書手交の様子 2

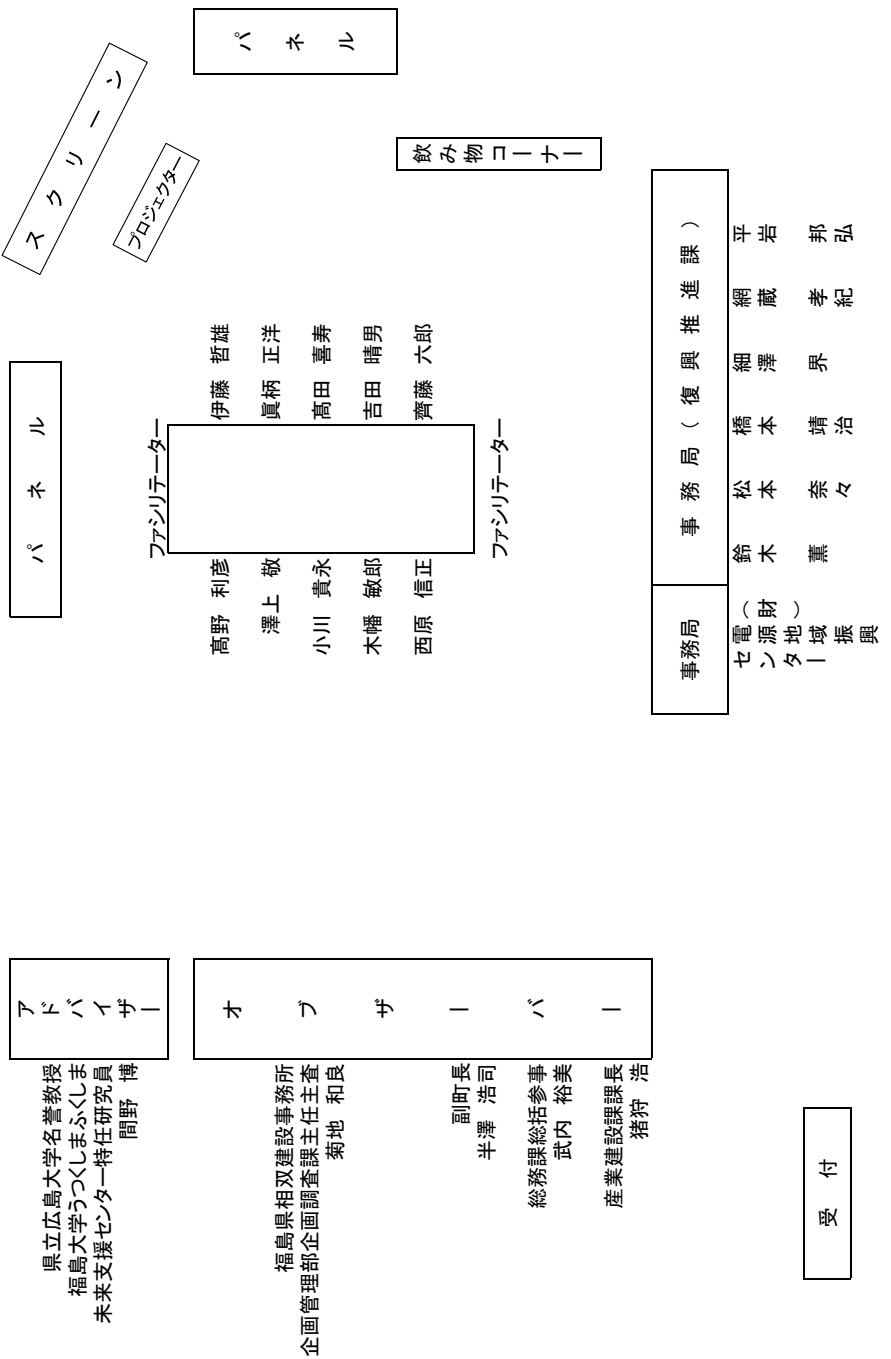


第4回双葉町復興町民委員会 復興産業等拠点部会座席表

(敬 称 略)

1 日時 平成27年11月25日(水) 13:00~16:00

2 場所 双葉町役場いわき事務所 2階大会議室



報道関係者 傍聴席